

## 4 鳥取市



## 4.1 プラットフォーム設立前の取組団体の状況

### 4.1.1 これまでの取組

鳥取市では、平成 30 年度に地域福祉推進計画を作成して包括的支援体制の整備に取りかかり、その後、重層的支援体制整備事業（令和 3 年度試行、令和 4 年度実施）に移行した。令和 4 年度には孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを設立し、本年度はこの取組を周辺の町（麒麟のまち圏域）に拡大する方針で支援事業に採択された。地域福祉推進計画及び重層的支援体制整備事業については昨年度事業にて報告されているため、以下に鳥取市孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの概要及び麒麟のまち連携中枢都市圏における主な取組について記す。

#### ○鳥取市孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム<sup>1</sup>

鳥取市では、生活困窮者支援や重層的支援体制整備事業を担当する総務部人権政策局中央人権福祉センターが担当となり、令和 4 年度に孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを設立した。鳥取市における官民連携 PF は、次の 3 つの構成要素からなる。

(ア) NPO、企業・団体、協同組合、社会福祉協議会、医療関係団体等で構成される官民連携 PF。各参画団体の住民接点を通じて把握している住民の困りごとの共有や各団体の強みやリソースの共有を行う。

(イ) 社会福祉法等の規定に基づく相談支援包括化推進会議。基本的に個別のケース対応などを行う。会議の参画者には法に基づき守秘義務が課される。

(ウ) つながりサポーター。地域で孤独・孤立に陥りそうな住民の情報を行政等の支援機関につなぐ役割を果たす。

鳥取市の官民連携 PF の特徴は、住民情報を行政等につなぐ「つながりサポーター」制度の創設である。従来、住民と行政をつなぐ仕組みとして、民生委員、社会福祉協議会、となり組福祉員、愛の訪問協力員等、高齢者を中心に支援する仕組みがあったが、民生委員や社会福祉協議会等は既存業務で負荷が高い状態にあること、あるいは持ち回りで担当する仕組みでは実質的に機能していない場合があること等が検討された。そこで、あくまで無償の住民ボランティアとして意思のある方に参画を促す方針で「つながりサポーター」制度が設立された。

---

<sup>1</sup> 野村総合研究所「令和 4 年度地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業に係る報告書」[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodoku\\_koritsu\\_platform/local\\_platform\\_houkokusyo/index.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodoku_koritsu_platform/local_platform_houkokusyo/index.html)

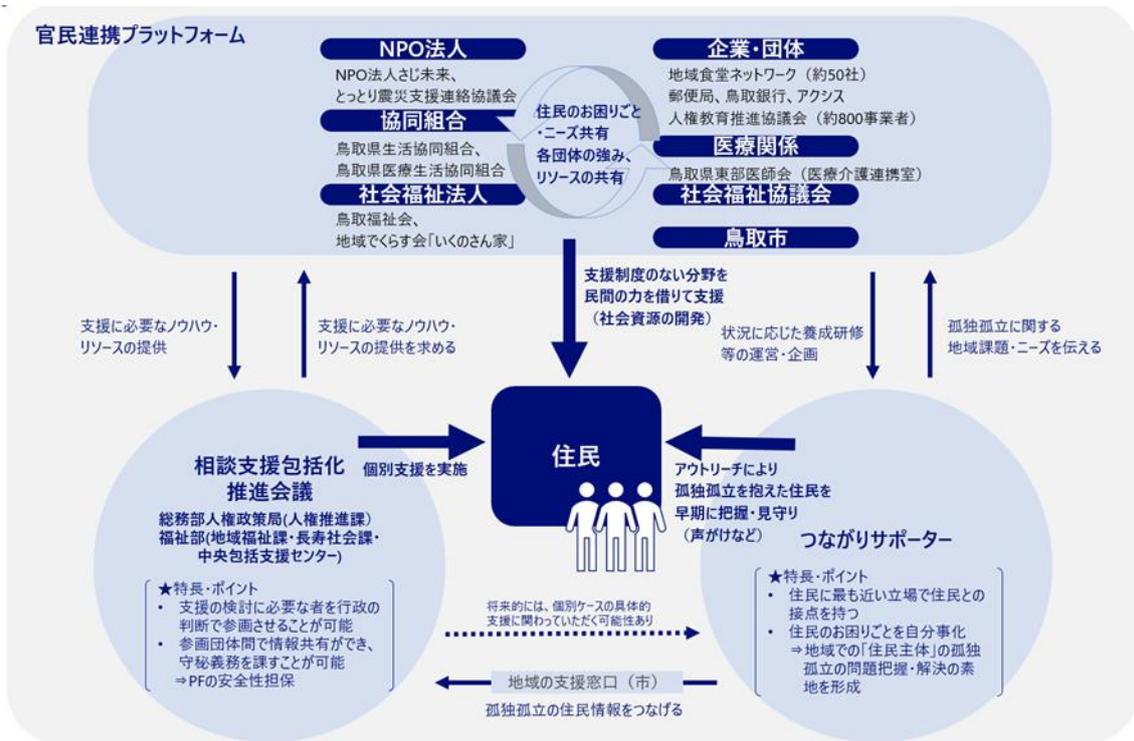


図 4-1 鳥取市孤独・孤立対策官民連携プラットフォームイメージ図

出典：「令和4年度地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業に係る報告書」

#### ○麒麟のまち連携中枢都市圏<sup>2</sup>における地域食堂支援事業

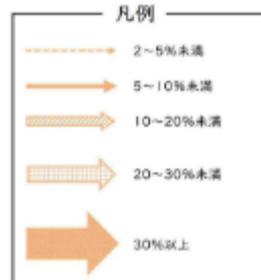
連携中枢都市圏とは、地方創成施策の一つとして打ち出された自治体連携の枠組みである。中核市と近隣の市町村が協力して「経済成長」「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」に取り組むことで、一定の圏域人口に基づいた活力ある社会経済を維持することを目的とする。

鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町及び兵庫県新温泉町では、平成30年4月から地域の伝統芸能「麒麟獅子舞」から名付けた「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」を形成している。令和2年度には兵庫県香美町が加わり、1市6町による連携を進めている。通勤や通学など生活圏を共有する、県を跨いだ広域の自治体連携が特徴である。

<sup>2</sup> <https://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1512380046822/index.html>



【15歳以上の通勤・通学者】



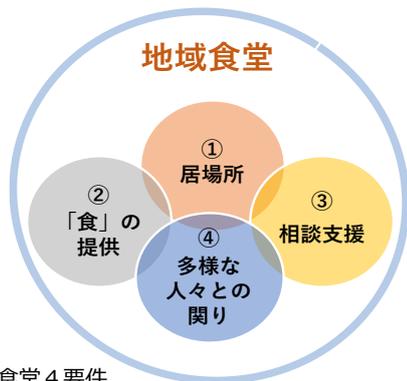
市町名	面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	65歳以上 人口割合(%)
鳥取県鳥取市	765.31	188,465	29.7
鳥取県岩美町	122.32	10,799	37.5
鳥取県若桜町	199.18	2,864	48.7
鳥取県智頭町	224.70	6,427	43.6
鳥取県八頭町	206.71	15,937	36.3
兵庫県香美町	368.77	16,064	40.7
兵庫県新温泉町	241.01	13,318	41.1
	2,128.00	253,874	32.4

図 4-2 麒麟のまち圏域の概要（令和2年）

出典：「第2期因幡・但馬麒麟のまち 連携中枢都市圏ビジョン」令和5年

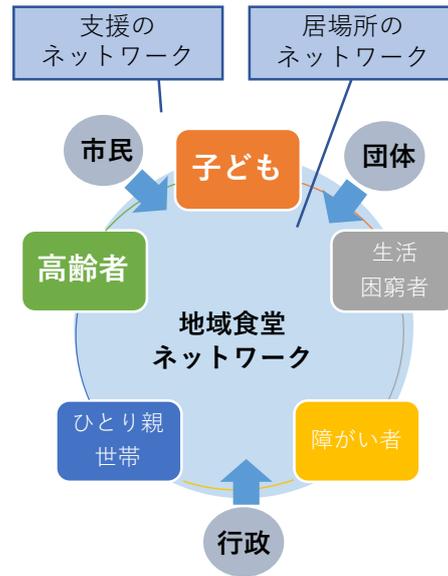
麒麟のまち圏域では様々な事業を展開しており、「地域食堂支援事業」はその一つである。「地域食堂（こども食堂）」は、子どもを中心とした多世代の地域住民を対象とし、食の提供のみならず、居場所の提供、相談支援も行う交流拠点である。令和元年11月の麒麟のまち創生戦略会議において地域食堂を圏域で推進することが決定され、「鳥取市地域食堂ネットワーク」（平成29年11月設立）の事務局としての体制を強化し、圏域で地域食堂が円滑に運営できるよう調整を行うこととなった。

令和5年3月には第2期連携中枢都市圏ビジョンが策定され、地域食堂支援事業は、令和9年度までの5年間、1市6町で約4千万円の予算が計上されている。令和6年2月現在、地域食堂は42か所で展開しており、支援団体・企業は60団体である。

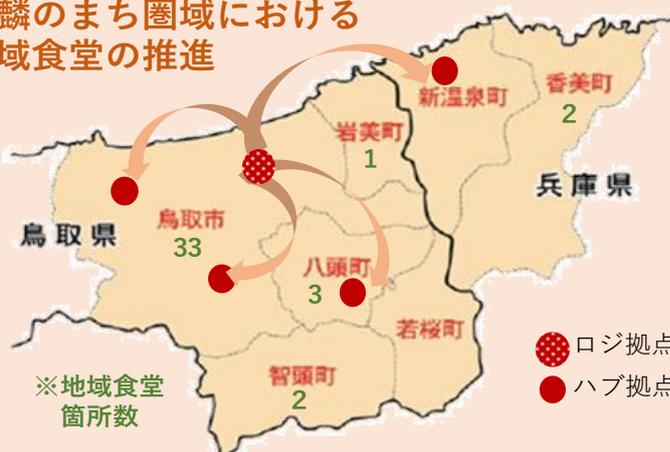


地域食堂4要件

- ① サードプレイスとして安心して過ごせる「居場所」
- ② 食育・食文化の観点をもって『食』を提供する
- ③ “つぶやき”を相談支援に引き上げる
- ④ 受け手＝利用者、支え手＝スタッフという一方の閉じた取組としない、地域の多様な人々が関わる



麒麟のまち圏域における地域食堂の推進



鳥取市と周辺4町、隣接の兵庫県2町で「麒麟のまち連携中枢都市圏」を形成しており、**圏域全体の地域食堂への支援と推進体制を構築**

- ロジ及びハブ拠点は、いずれも市町設置の施設内に大型冷蔵・冷凍庫を設置し、生鮮品や冷凍品を保管
- ロジ拠点において毎月約3トンの食材等を集荷し、各ハブ拠点を通じて各地域食堂をはじめ母子支援施設、更生支援施設などへも提供

図 4-3 麒麟のまちの地域食堂

出典：鳥取市中央人権福祉センター資料

#### 4.1.2 孤独・孤立対策に取り組むことになったきっかけ

鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センターは住民の相談窓口であるが、孤独・孤立を抱えている人が自ら相談にくるケースは全体の3割ほどで、ほとんどのケースは周囲の人の力を借りて行政との接点を作っていることを把握していた。また令和3年に鳥取市で50代の男性が80代の父親の死体を遺棄する事件が発生した際、周辺の人々は当該家庭の状況を察知していたものの、行政からの支援は届いていなかった。あらためて地域住民と行政が連携する環境が必要であるとの意識から孤独・孤立対策の検討を開始し、令和4年度に孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを設立するに至った。

官民連携PFの中で「つながりサポーター」養成研修など孤独・孤立対策に関する事業を実施したところ、鳥取市とともに麒麟のまち連携中枢都市圏を形成している町から、孤独・孤立対策について連携して取り組みたいとの要望があった。そこで、連携する近隣6町と連携し、孤独・孤立対策官民連携PFの構成団体を拡充しながら「つながりサポーター」養成研修の共同実施や地域食堂支援のためのフードサポート事業を検討していくこととした。

## 4.2 プラットフォーム設立に向けた取組

麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム立ち上げまでの行程は、次のとおりである。

表 4-1 官民連携 PF の形成に向けた経緯

時期	実施作業	実施内容
R5/7/10~20	市町への説明	政策推進会議（鳥取市幹部会）及び各町担当課への説明及び意見交換を実施
7/14	孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会議	昨年度事業の説明及び本年度の取組について意見交換を実施
7/21	鳥取市定例会見	定例会見の中で、公に連携 PF の広域推進を表明
8/22	つながりサポーター養成研修兼鳥取市孤独・孤立対策官民連携 PF 勉強会	鳥取市民集会の分科会として、つながりサポーター養成研修（昨年 12 月に第 1 回を開催してから 2 回目）を連携 PF 勉強会と兼ねて開催
10/12	食支援プラットフォーム形成に向けた情報交換会	現状の課題を検討し、来年度、食支援推進会議を立ち上げることを確認
10/18 ~2/23	つながりミーティング	鳥取大学と共同で市民参加型ワークショップを鳥取市内で 11 回開催
10/30	麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携 PF 担当者会議	改めて 1 市 6 町の担当者会議を開催し、推進事業について検討
10/31 ~R6/3/8	つながりサポーター養成研修	つながりサポーター養成研修を圏域で展開（鳥取市 7 回、新温泉町・智頭町・八頭町各 1 回）
11/2	麒麟のまち創成戦略会議（首長会議）	地域食堂事業を基盤に、麒麟のまち圏域で孤独・孤立対策を推進していくことを正式に決定
R6/2/19	麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携 PF 研修	PF の構成団体向けに、孤独・孤立対策における官民連携の意義について検討
2/20	孤独・孤立対策官民連携 PF シンポジウム in 麒麟のまち	住民向けに孤独・孤立対策の取組を紹介。つながりサポーターへの登録を呼びかけ

### 4.2.1 プラットフォーム設置により何を実現/解決したかったか

- プラットフォーム設立の目的

単独の自治体では予算及びマンパワーが限られていることから、生活圏を共有する 1 市 6 町が連携して社会資源を分かち合い、孤独・孤立対策に取り組むことで、圏域全体の地域共生社会の実現を推進することが目的である。

- プラットフォームの機能や実現したい状態

前項 4.1.1 に述べた通り、官民連携 PF の主な役割は、以下の 3 つである。

- ・ 情報やリソースの共有：住民の困りごと・ニーズの団体間での共有、各団体の強み・リソースの共有。相談支援包括化推進会議で孤独・孤立の困難事例について検討する

- ・ 人材育成：つながりサポーター養成研修を広域で実施する
- ・ 市民への周知：市民参加型ワークショップ「つながりミーティング」を鳥取大学と連携して開催、また市民向けシンポジウムの開催を通じて啓発する

官民連携 PF では、相談支援包括化推進会議から官民連携 PF に対して支援に必要なノウハウやリソースの提供を要請し、官民連携 PF の参画団体から提供してもらう、また、つながりサポーターから官民連携 PF に対して地域課題や・ニーズを伝達し、支援制度のない分野については官民連携 PF に参画する民間の力を借りて支援するといった取組みを想定している。

官民連携 PF の拡大・普及には、つながりサポーターの養成が重要である。鳥取市内では 17 ある中学校区に 20 名程度のサポーターがいる状態を目指している。生活圏である麒麟のまち圏域にもサポーターがあたりまえに居る状態を目指し、地域全体でつなげる力を醸成していく。

- 既にあるものをどのように活かすか

孤独・孤立対策に関する合意形成は、平成 30 年に設置した「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」の既存の会議体である首長会議や担当者会議を活用しており、連携中枢都市圏における事業の一つとして進められている。

また、「つながりサポーター」養成研修は、令和 4 年度から鳥取市で実施しており、本年度はより受講しやすいように研修場所や内容を工夫し、麒麟のまちに展開している（4.3.2 に詳述）。

#### 4.2.2 プラットフォームの体制

- 新設か、既存組織の応用・活用か

麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォームは、令和 4 年度に設立された鳥取市孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを基盤として、周辺 6 町に広域展開するものである。麒麟のまち圏域における事業の最終意思決定機関は、麒麟のまち創成戦略会議（1 市 6 町の首長会議）であり、各市町の担当者レベルの会議体を実務的な推進役を担っている。首長会議は年 3 回程度開催され、担当者会議はその準備会合として開催されている。

- 構成員、参加団体の選出方法

官民連携 PF は、市町担当者との協議で進められた。鳥取市中央人権福祉センターでは、7 月中頃に政策推進会議（鳥取市幹部会）、及び各町の担当課への説明を実施し賛同を得、7 月 21 日の鳥取市長定例会見にて公に連携 PF の推進を表明している。10 月 30 日に改めて各町担当者会議を実施して意見交換を行い、11 月 2 日の創生戦略会議（首長会議@兵庫県香美町）において、広域連携 PF 事業の推進を正式に決定した。

麒麟のまち圏域では、既に連携して地域食堂事業が実施されており、これを基盤として孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへの参加の声掛けが各自治体で進められている。

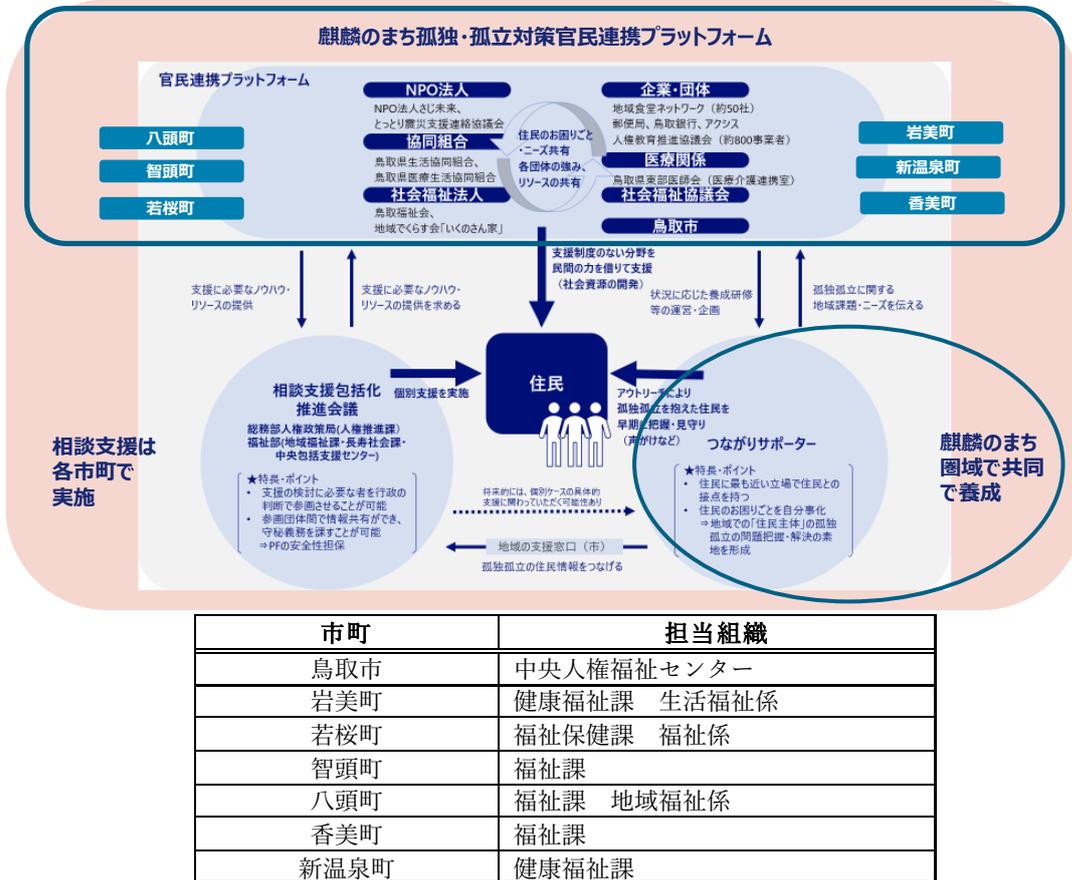


図 4-4 麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

#### 4.2.3 プラットフォームでの協議事項

麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業担当者会議（令和5年10月30日開催）では、次の議題について協議された。

- ・ 官民連携 PF の拡充と取組の周知（広報資料の作成、シンポジウム開催、ステッカー作成）
- ・ つながりサポーター養成研修の実施（教材作成、研修の実施目標、広報資料の作成、つながりミーティングの開催）
- ・ 各市町担当職員・官民連携 PF 構成団体等の研修会の実施
- ・ フードサポート事業の推進

#### 4.2.4 プラットフォーム形成に向けて工夫した点、苦労した点

麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォームは、鳥取市の官民連携PFを自治体のつながりである麒麟のまちに拡大して展開するもので、成り立ちは行政主導といえる。民間団体の参画については、先行して麒麟のまち圏域で展開されている地域食堂事業を基盤として、各自治体から関連団体に呼びかけている。

苦労した点としては、担当部署は重層的支援体制整備事業（厚生労働省）や老人保健増進等事業（厚生労働省）、NPO 等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業（こども家庭庁）など孤独・孤立対策に関係する複数の事業を並行して実施しているため、マンパワー不足は恒常的な課題である。

### 4.3 プラットフォームの形成後（形成途中）の取組

#### 4.3.1 プラットフォーム関係者の認識・課題意識の共有はどのように行ったか

##### ● 市内（行政間）の動き

鳥取市では令和4年度にプラットフォームを立ち上げており、孤独・孤立対策に関する認識・課題の共有はなされている。麒麟のまちへの広域展開については、7月の政策推進会議（鳥取市幹部会）において担当部署から説明を実施した。

また、4.2項に前述したとおり、麒麟のまち圏域の各町の担当者との個別の意見交換（7月）及び担当者会議（10月）において連携PFの推進について協議した。その際に得られた意見や要望を支援事業に活かしている

表 4-2 各町からの連携PFに対する意見や要望

市町からの意見、要望
(つながりサポーターについて)
<ul style="list-style-type: none"><li>地域単位で「つながりサポーター」を養成し、気にしあう地域づくりを進めていきたい。養成のための出前研修や圏域での情報交換を実施してほしい (→令和5年度支援事業として着手)</li><li>つながりサポーターがキャッチした情報をどう支援機関等につなげていくのが課題である</li><li>他のサポーター（認知症サポーター、ゲートキーパー）や民生委員との兼ね合いや違いを丁寧に説明していく必要がある (→令和5年度地区社協研修会・民児協会長会・民児協西部ブロック研修会等で説明)</li><li>若い方をターゲットにして「つながりサポーター」を養成し、子育て世代への支援につながればよいと思う</li></ul>
(情報交換の要望)
<ul style="list-style-type: none"><li>「地域」でできることと「広域」でできることの整理が必要である。個別支援については市町ごとのやり方があるので統一はできないが、各市町の支援機関が困難事例にどう対応しているのかについて情報交換を行いたい</li><li>孤独・孤立対策の具体策は、重層的支援体制整備事業と重なるところが多くある。今後、事業を実施する予定であり、各市町がどう実施しているのが情報を得たい</li></ul>
(その他)
<ul style="list-style-type: none"><li>孤独・孤立対策についてはこれまで職員の持つ経験やノウハウによって対応してきたが、次代の若手職員に引き継げられるかどうか心配であり、今のうちに「仕組み」を作っておくことが必要と考えている</li><li>各市町の商工会をプラットフォームの構成団体にして拡充してみてもどうか</li><li>孤独・孤立対策の啓発手法として、「子供110番」ステッカーのような「孤独・孤立対策」版ステッカーを作成し、PF構成団体等の事務所に掲示してはどうか (→令和5年度支援事業として実施)</li></ul>

- 庁外の動き

7月14日に鳥取市孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会議を開催し、構成団体との意見交換を実施した。麒麟のまち圏域の6町と合同でつながりサポーターの養成やフードサポート事業を進めていくことを確認した。

また、フードサポート事業の拡充に向けて、10月12日に食支援プラットフォーム形成に向けた情報交換会を開催し、現状の課題や今後の方針を議論した。ロジ・ハブ拠点をフードドライブ拠点として活用すること及び配送・一時保管の課題について検討し、令和6年度に「食支援プラットフォーム推進会議」を立ち上げることを確認した。構成団体は、大学、鳥取県(3課)、県社協、県生協、県隣協、NPO法人(2)、物流事業者、県子どもの居場所ネットワーク、地域食堂ネットワーク、鳥取市中央人権福祉センターである。なお10月30日の麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PF担当者会議において「麒麟のまち圏域+県域 食支援プラットフォーム推進会議」とすることを確認し、経済的食品アクセス確保のための「地域協議会」機能を創出することとした。

さらに、麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PF構成団体の研修を実施(令和6年2月19日)し、関係者の認識・課題意識を共有する機会を設けた。



【プログラム】

- 開会
- 講義：大西連氏「孤独・孤立対策の概要と地域でできること」(60分)
- 意見交換、交流会(60分)
- 閉会
- 参加者：プラットフォーム構成団体(鳥取市中央人権福祉センター、医療生活協同組合、鳥取市社会福祉協議会、鳥取福祉会ほか)

図 4-5 「麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PF研修会」の様子

- プラットフォーム間の情報共有(北九州市視察)

麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの構成団体(鳥取市、社団法人つむぐる(智頭町))による北九州市視察を令和6年3月6、7日に実施した。NPO法

人と行政との密な連携や関係団体間のつながりづくり等、今後のプラットフォーム運営についての気づきを得た。

表 4-3 北九州市視察の内容

訪問日	訪問先	内容	気づき・成果
R6/3/6	認定NPO法人抱樸	北九州市を拠点に、生活困窮者や社会からの孤立状態にある人々の生活再建を支援している認定NPO法人。社会的孤立状態にある人を「ひとりにしない」ことや「つながり続ける」ことを基本姿勢とする支援を構築しており、職員から、従来の問題解決型支援に加え、伴走型支援について学んだ。	NPO法人と密に連携を取り孤独・孤立対策を進めている北九州市の取組は麒麟のまちに足りない要素であり、今後事業を進めていく上で、行政の支援だけでは届かない「支援の狭間」を埋めることができるNPOをより巻き込んでいく必要性を再認識した。
3/7	北九州市地域福祉課孤独・孤立対策担当、北九州市社会福祉協議会	官民連携PFとして「北九州市孤独・孤立対策等連携協議会」を令和4年2月に設立。自発的・自走的な取組とするため事務局機能を参加団体に移行する準備中。麒麟のまちにおいても事務局機能のNPO法人への委託を検討しており、支援関係団体との関係や活動についてディスカッションを行った。	北九州市は孤独・孤立対策等連携協議会(PF)の運営に力を入れており、参加団体同士のつながりづくりが活発である。麒麟のまちでも今後、団体同士の連携を強めていく必要があると感じており、北九州市の組組みを参考に今後、会議や研修会、イベント等の開催を検討したい。

#### 4.3.2 孤独・孤立対策に関する住民への周知・意識付けをどのように行ったか

住民への周知・意識付けは、次のとおり積極的に実施した。

- ・ 「つながりサポーター」養成研修の実施
- ・ 市民参画型ワークショップ「つながりミーティング」の開催
- ・ シンポジウムの開催
- ・ 広報資料（啓発ステッカー、リーフレット）や教材等の作成

##### ① 「つながりサポーター」養成研修

孤独・孤立対策の取組として最も重視するのが「つながりサポーター」の養成である。令和4年12月に第1回の養成研修を行い、本年度はこの更新研修も兼ねて、麒麟のまち圏域で11回の研修を実施した。その結果、昨年度時点で41名であったつながりサポーター登録者が252名(令和6年3月12日時点)まで増加した。うち麒麟のまち圏域には36名のサポーターが誕生した。

表 4-4 「つながりサポーター」養成研修

開催日時	場所対象	参加者数
R5/8/22 (火)	鳥取市民集会	84
10/31 (火)	鳥取医療生協 組合員	28
12/1 (金)	鳥取医療生協 中堅職員	24
12/3 (日)	西・中ノ郷ブロック民生児童委員	38
12/9 (土)	高草地区	19
12/22 (金)	鳥取医療生協 中堅職員	25
R6/1/14 (日)	富桑地区福祉関係者会議	34
1/17 (水)	麒麟のまち圏域/鳥取市役所駅南庁舎	39
2/28 (水)	兵庫県新温泉町	11
2/29 (木)	智頭町	29
3/8 (金)	八頭町	17
	合計	348

昨年度開催した第 1 回目の研修は鳥取市人権交流プラザにおける 1 日研修 (9:30~16:30) であったが、今年はより受講しやすい形態を検討した。イベントの一部として開催する、PF 構成団体の事業所や地域へ出向いて実施する、専門職向けの研修として実施するなど、より機動的に多様な研修機会を提供するよう工夫した。1 月以降は麒麟のまち圏域への展開を意識して研修を提供した。

鳥取医療生活協同組合は、鳥取市及び若桜町でサービスを行うプラットフォーム構成団体であり、本年度は「つながりサポーター」養成研修を職員研修の一環として導入した結果、計 3 回、77 名が受講した。

**【プログラム】**

- 研修形態
  - 講演「孤独・孤立対策事業の背景／麒麟のまちの孤独・孤立対策／伴走型支援」(60~90 分)
  - グループワーク「身近にある多様な孤立ケース」(60~90 分)
- テキスト
  - 「伴走型支援 新しい支援と社会のカタチ」奥田知志・原田正樹 編集
- 修了認定
  - 研修修了者へ終了証とバッジの交付
- 修了者の登録
  - 連絡先及び LINE 登録により随時、情報提供

図 4-6 「つながりサポーター」養成研修の内容

医療生協（10/31）



医療生協（12/1）



西・中ノ郷(12/3)



高草（12/9）



医療生協（12/22）



富桑（1/14）



図 4-7 「つながりサポーター」養成研修の様子

② 市民参画型ワークショップ「つながりミーティング」の開催

「つながりミーティング」は、孤独・孤立について考える、誰でも参加できる市民参画型ワークショップである。概ね中学校区を範囲として想定し、地域の住民やつながりサポーター、身近な相談機関の支援員等の顔の見える関係づくりを目的とした集まりである。鳥取大学と共同して大学生がコーディネーターとして参加し、約2時間のワークショップを鳥取市内計11か所で開催した。

表 4-5 「つながりミーティング」開催実績

実施日	会場	参加者数 (学生除く)	学生 参加者数
R5/10/18 (水)	鳥取市人権交流プラザ	21	6
10/22 (日)	佐治人権福祉センター	18	1
10/26 (木)	西人権福祉センター	26	5
11/2 (木)	国府人権福祉センター	19	11
11/9 (木)	江山人権福祉センター	19	6
11/15 (水)	南人権福祉センター	22	4
11/17 (金)	用瀬町総合支所	19	5
11/18 (土)	河原人権福祉センター	22	5
11/21 (火)	気高人権福祉センター	25	8
11/25 (土)	高草人権福祉センター	26	9
R6/2/23 (金)	鳥取市役所本庁舎 (総括会)	5	10
	合計	222	70

【プログラム】

- 開会
- 問題提起 (孤独・孤立の現状に関する講義：20~25分)
- グループワーク「孤立・孤独のないステキな地域にするにはどんなことが必要ですか」  
(45~60分)
- 各グループ発表 (1グループ3分程度)
- 閉会

図 4-8 「つながりミーティング」の内容

佐治 (10/22)



江山 (11/9)



南 (11/15)



用瀬 (11/17)



河原 (11/18)



気高 (11/21)



図 4-9 「つながりミーティング」の様子

### ③ シンポジウムの開催

住民向けのシンポジウムを開催（令和6年2月20日）し、孤独・孤立問題を社会全体で考えるための気運の醸成と取組の周知を図ることとした。シンポジウムには約170名が来場し、大西連氏（認定NPO法人自立生活サポートセンターもやい理事長、内閣官房政策参与）の基調講演の後、鳥取市、智頭町福祉事務所、兵庫県新温泉町社会福祉協議会、つながりサポーターからそれぞれ活動が紹介された。

パネルディスカッションでは「つながりサポーターに期待すること」「プラットフォームの拡大波及に必要なこと」「麒麟のまちがこれから目指す姿」について意見交換し、つながりサポーターを地域で増やしていこうとのメッセージで終幕した。



主催者挨拶



基調講演



各市町の取組紹介



パネルディスカッション



図 4-10 シンポジウムの様子

会場アンケートによると、シンポジウム来場のきっかけは「孤独・孤立支援に興味があった」(44.9%)、「つながりサポーターに興味があった」(20.6%) が多い。シンポジウム参加後の自身の変化を尋ねると「興味があった」と回答する方が 60%と多く、元々関心の高い聴衆に訴求する内容であった。今後、類似のイベントがあれば「参加したい」(43.5%) 「内容によっては参加したい」(48.1%) と答える方が9割を超えた。

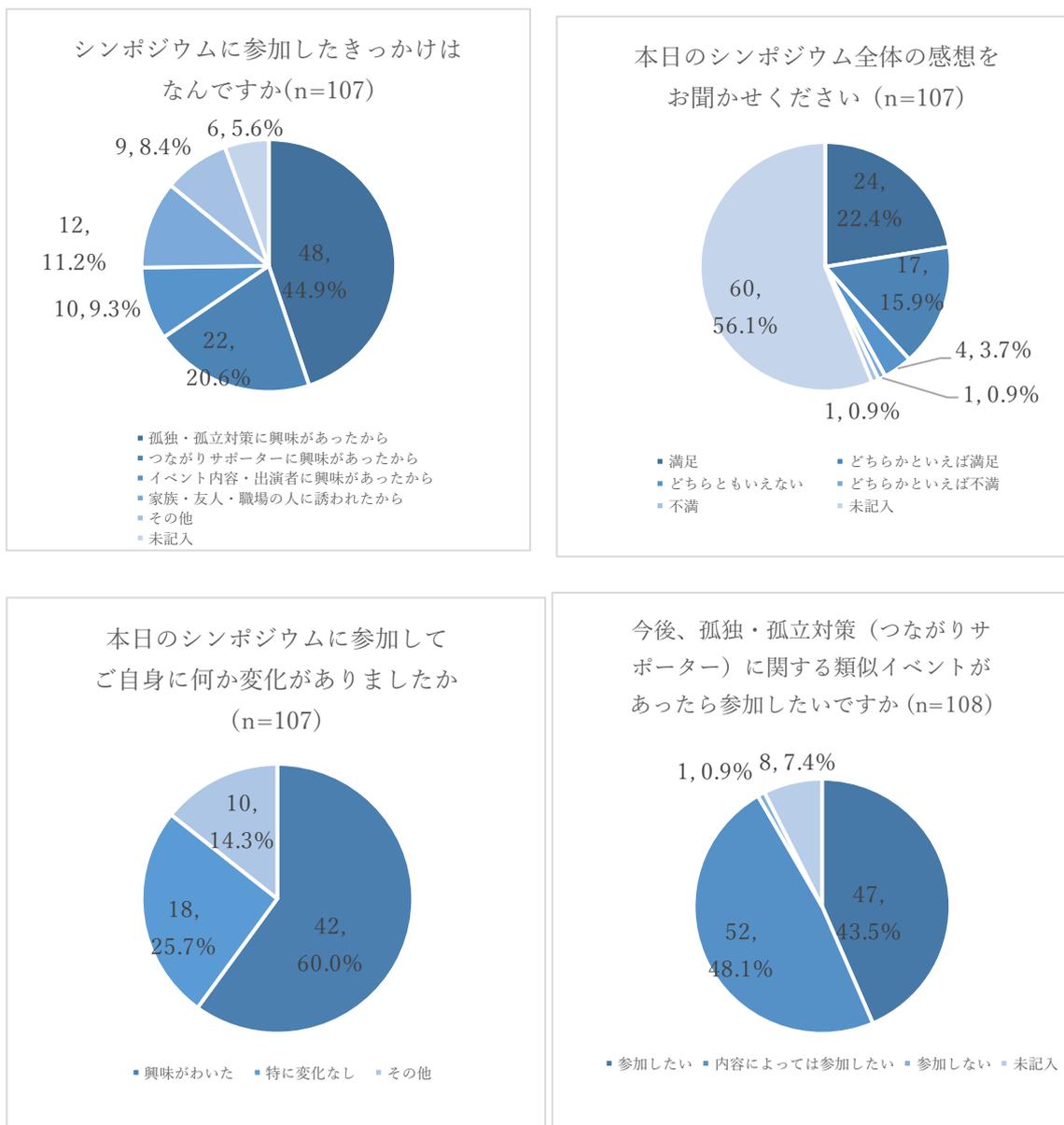


図 4-11 シンポジウムアンケート結果

④ 広報資料（啓発ステッカー、リーフレット、バッジ）や教材等の作成

各町の担当者との孤独・孤立対策の取組の周知について意見交換を実施したところ、「こども 100 番」のような孤独・孤立対策の啓発ステッカーを作成してはどうかとの提案があり、試行的事業の中で作成した。プラットフォーム構成団体の事業所の入口等に掲示することを想定している。

また、「つながりサポーター」バッジも作成し、養成研修の修了者に配布した。孤独・孤立対策の取組の視認性を高めるため、統一のロゴマークを使用している。



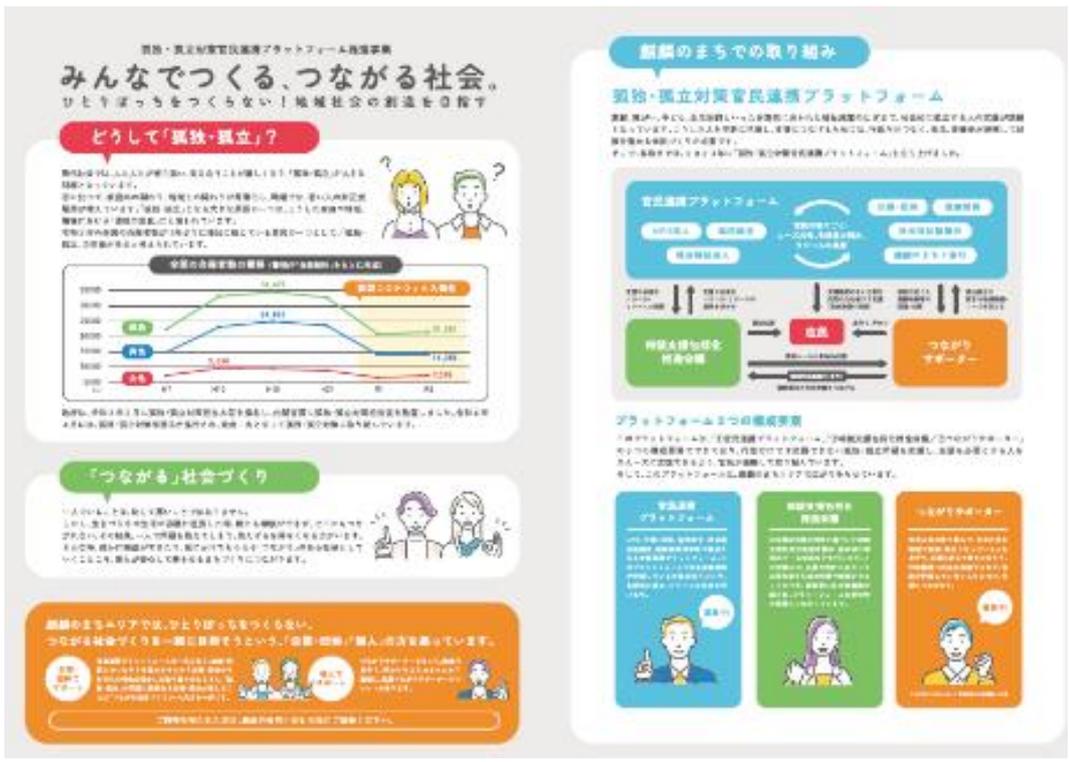
啓発ステッカー（B6 判）



つながりサポーターバッジ

図 4-12 広報資料等（ステッカー、バッジ）

そのほか、孤独・孤立対策事業の紹介と、プラットフォーム構成団体の募集、つながりサポーターの募集のためのリーフレットも次ページのとおり作成した。



孤独・孤立対策官民連携 PF 紹介リーフレット (A3判)



つながりサポーター募集リーフレット (A3判)

図 4-13 広報資料等 (リーフレット)

また、つながりサポーター養成研修の内容を充実させるため、教材として活用する目的で動画（45分）を作成した。八頭町にて3月8日に実施した研修から動画を活用している。



#### 【教材の内容】

- 孤独・孤立とは
  - －社会的背景
  - －日本における孤独・孤立対策の取組
- 麒麟のまちの取組
  - －麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム
  - －つながりサポーター
  - －鳥取市長スピーチ
- 講演 ①原田正樹氏（日本福祉大学学長）
  - ②奥田知志氏（認定NPO法人抱樸理事長）
- ロールプレイング
  - －事例

図 4-14 研修用動画の内容

#### 4.3.3 団体内の孤独・孤立対策を充実させるための事業で何を優先させたか

- 試行事業一覧

本年度の試行事業を次のとおり実施した。

表 4-6 試行事業の実施内容

事業名称	事業内容	目的・期待される効果	実施時期	発注先(予算配分)
つながりサポーター養成研修	支援の必要な方の見守りを行う市民ボランティアの養成を令和4年12月から開始 今年は広域に展開	孤立させない地域社会の創造 市民ボランティアの育成	R5/8 ~R6/3	有斐閣 テキスト代 (1,080,000)
市民参加型ワークショップ「つながりミーティング」	「孤独・孤立のない地域にするためにはどんなことが必要ですか」をテーマに、参加者同士が小グループに分かれて話しあうワークショップを実施	孤独・孤立対策に関する市民の啓発 人材育成(学生の参加)	R5/10 ~11	学生への謝礼 (150,000)  学生の交通費 (56,783)
研修参加	PF構成団体のメンバーが高齢者免許返納に関する研修会に参加	当該テーマに関する知見の蓄積	R5/12	株式会社つむぎ (8,000)
つながりサポーター拡充に向けた広報業務	広報資料の作成(ステッカー、つながりサポーター募集リーフレット、孤独・孤立対策紹介用リーフレット、つながりサポーター認定バッジ) 研修用動画の作成	つながりサポーター養成制度の拡充・普及 孤独・孤立対策の認知度の向上 PF構成団体の拡充	R5/12 ~R6/2	m&m.co (5,373,909)
官民連携PF研修	PF構成団体の研修	PF構成団体の連携強化	R6/2/19	講師謝礼・交通費 (95,668)
シンポジウムの開催	市民向けシンポジウムの開催 「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム in 麒麟のまち」	市民への周知、啓発 PF構成団体の連携強化	R6/2/20	
視察研修旅費	連携PF構成団体及び市町担当者と北九州市及びNPO法人抱樸(在北九州市)の取組みを視察し意見交換を実施	PFを構築する自治体の横の連携を強化	R6/3/6~7	旅費(163,746)
			計	6,928,106

試行事業の効果は次のとおりである。

- ・ 「つながりサポーター」養成研修の成果は、昨年度は登録者 41 名であったが、本年度は新たに 211 名が登録し 252 名となった（令和 6 年 3 月 12 日時点）。うち鳥取市以外の麒麟のまち圏域在住者は 36 名である。
- ・ 市民参画型ワークショップ「つながりミーティング」は、参加者数 222 名（学生除く）、鳥取大学の学生述べ 70 名が参加した。
- ・ 市民向けシンポジウム（令和 6 年 2 月 20 日）には、170 名の来場があった。シンポジウムの模様は、鳥取市ケーブルテレビで番組放映されたほか、youtube で動画を公開した。

そのほか、孤独・孤立対策に関して以下の媒体で掲載された。

- ・ 鳥取市報（令和 5 年 4 月号）「特集ひとりぼっちをつくらない！地域社会の創造を目指す」
- ・ ケーブルテレビ（令和 5 年 5 月 12、13 日）「鳥取市広報番組とっとり知らせたい！」孤独・孤立に対する取組の紹介
- ・ 日本海新聞（令和 5 年 11 月 3 日）「2 期ビジョンの孤独・孤立対策 麒麟のまち創生戦略会議」
- ・ 日本海新聞（同 12 月 21 日）「国が注目「つながりサポーター」」
- ・ 公明新聞（令和 6 年 1 月 31 日）生きづらさ抱える人の“SOS”をキャッチ、注目されるつながりサポーター」
- ・ 公明新聞（同 2 月 2 日）「社会とのつながり保つ手だてを」
- ・ 日本海新聞（同 2 月 21 日）「つながりサポ「先駆的」鳥取でシンポ孤立者支援めぐり討論」
- ・ 日本海新聞（同 3 月 22 日掲載予定）「麒麟のまちエリアでの孤独・孤立対策特集」

#### 4.3.4 次年度以降予定している取組

予定している取組は次のとおりである。

##### ○つながりサポーター養成研修

鳥取市内では、各中学校区（N=17）に 20 人程度のつながりサポーター（約 350 人）が居ることを目標としている。次年度以降も引き続き養成研修を開催しサポーター数の増加に努める。さらに麒麟のまち圏域に拡大していく。

本年度の試行事業の中で教材（動画）を作成しており、これを活用していく。

#### ○つながりミーティング

各中学校区を目安として、地域住民やつながりサポーター、行政、支援団体との情報交換の場としてつながりミーティングを開催する。また地域にとどまらず、つながりサポーターが他の地域へ出張し、地域を超えて意見交換したり、活動事例を共有したりする機会を将来的に設けることもつながりサポーター自身から提案されている。

#### ○フードサポート事業の拡充に向けた取組

令和6年度に「食支援プラットフォーム推進会議」を立ち上げ、麒麟のまち圏域及び県域で経済的食糧アクセス確保のために取り組む予定である。構成団体は大学、鳥取県（3課）、県社協、県生協、県隣協、NPO法人（2）、物流事業者、県子どもの居場所ネットワーク、地域食堂ネットワーク、鳥取市中央人権福祉センターである。

#### ○事務局機能の一部を参画団体に移行

来年度以降は、孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの事務局機能の一部をNPO法人に委託し、共同運営していく予定である。鳥取市は孤独・孤立対策推進員の枠を確保してNPO法人に委託、推進員はNPO法人から行政(中央人権福祉センター)に派遣され、プラットフォーム会議の運営、つながりサポーターの養成研修やつながりミーティングの開催等を行うことを想定している。